

# 乳房文化研究会 定例研究会「乳がんと生きていく」

乳がんの診断を受ける女性は増え続けています。乳がんは他のがんと比べて、罹患年齢が若いことや、5年・10年相対生存率が高いことが特徴で、「治るがん」とも言われています。「がん＝死」ではなくなりつつある中で、診断を受けた後の人生と時間をどう生きるのか、医療者だけでなく、とりわけ家族や友人、知人、職場などとの関係を見直し、“ふつう”に生きていくにはどうすればいいのかが問われます。

今回の定例研究会は、乳がんという病気の特徴、乳がんを抱えながら生きることの知恵、サポートのあり方について、日本でがんサバイバーシップ研究をリードしてこられた NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事の高橋都先生をお招きしてご講演をいただき、参加者とともに考える機会とします。

## ■2024年6月22日（土）

13:30 開場&オンライン開始

14:00～14:05 開講挨拶 河田光博（乳房文化研究会長）

14:05～14:10 研究会の主旨説明 菅森朝子（乳房文化研究会運営委員）

14:10～15:10 ご講演「がんになっても人生は終わらない

ー“がんサバイバーシップ”研究者そして家族の立場から」

高橋都先生（NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事，  
岩手医科大学客員教授，東京慈恵会医科大学客員教授）

15:10～15:25 休憩

15:25～16:25 質疑・討論 高橋都先生・参加者 コーディネーター菅森朝子委員

16:30 閉会

## ■場所：会場&オンライン

会場：ワコール本社 2F 会議室（京都市南区吉祥院中島町 29）南側入口よりご入館ください。

会場へは公共交通機関をご利用ください。JR・東海道本線「西大路駅」南口から徒歩 4 分  
（改札を出て右方向）

## ■レジメ：乳房文化研究会の HP にアップしています。オンラインの方は各自でダウンロードください。

読み取りにはパスワードが必要です。（Peatix 経由で参加者にはお知らせしています）

会場参加の方は会場にプリントアウトしたものをご用意いたします。

**ご注意！ レジメは転載不可。個人の勉強に限定でお願いします。**

## 高橋 都先生（たかはし・みやこ） プロフィール

NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワーク

岩手医科大学客員教授，東京慈恵会医科大学客員教授

### <略歴>

1984 年岩手医科大学医学部卒業。一般内科医として都内医療機関に 10 年間勤務後、東京大学大学院で国際保健学を専攻。博士（保健学）。東京大学、獨協医科大学で社会医学系の教員として勤務。

2001 年 UCLA 公衆衛生大学院客員研究員

2013-2020 年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として研究と情報発信に取り組む。定年退職後、NPO 法人日本がんサバイバーシップネットワークを設立。「学ぶ」「楽しむ」「発信する」を合言葉にして活動している。港区立がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」のアドバイザーとしても勤務。

### <主な所属学会、団体など>

日本癌治療学会(社会連携 PAL 委員) ，

日本がんサポートケア学会（サバイバーシップ部会長）

日本臨床腫瘍学会，日本内科学会，日本公衆衛生学会，日本産業衛生学会，

AYA がんの医療と支援のありかた研究会 等

### <主なご著書など>

翻訳書：

高橋都，久村和穂，佐々木治一郎：がんサバイバーシップ学～がんにかかわるすべての人へ  
メディカルサイエンスインターナショナル，2022

高橋都，針間克己：がん患者の<幸せな性> 新装版－あなたとパートナーのために 春秋社，2007

共編著：

高橋都，森 晃爾，錦戸典子：企業のためのがん就労支援マニュアル 労働調査会，2016

安藤泰至・高橋都編：シリーズ生命倫理学第 4 巻「終末期医療」 丸善出版，2012

高橋都・一ノ瀬正樹編：死生学第 5 巻 <医と法をめぐる生死の境界> 東京大学出版会，2008

高橋都・会田薫子編 はじめての質的研究 医療・看護編 東京図書，2007 など

■コーディネーター 菅森朝子（すがもり・あさこ）

立教大学 社会学部 助教／乳房文化研究会運営委員